



コンタクトレンズをつけると、どうして目がよく見えるの

「めがね」をかけたのと、同じになるため

「めがね」は、「めがね」のフレーム(わく)に、レンズをつけたものです。コンタクトレンズをつけるというのは、このレンズを、直接目につけることなので、「めがね」をかけたのと、同じことになるのです。ですから、目がよく見えるようになるのです。

「めがね」をかけると、よく見えるようになるのは

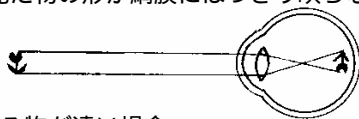
目には水晶体があり、そこを光が通って、目のおくにある、網膜に像を結ぶため、物を見ることができるのです。水晶体は、だん力のある、凸レンズのような形をしています。毛様筋ののび縮みにより、水晶体の厚さは変わり、光の通り方を調節して、遠くの物でも、近くの物でも、見た物の像が、網膜にはっきりと映るようにしています。

しかし、近視や遠視になると、眼球の形が変わってしまい、水晶体の厚さを変えるだけでは、光の通り方を調節することができず、見た物を、網膜にはっきりと映しだすことができなくなります。そのため、めがねをかけて、光の通り方を調節するのです。

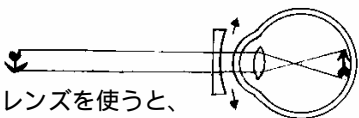
(監修・保志 宏)

近視の目

眼球のおくゆきが長いので、光の像が網膜の前の方で結び、見た物の形が網膜にはっきり映らない



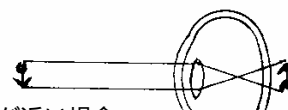
見る物が遠い場合、網膜の前方で像を結ぶ



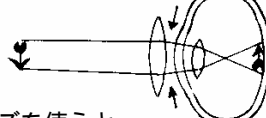
凹レンズを使うと、網膜の上に像を結ぶ

遠視の目

眼球のおくゆきが短いので、光の像が網膜の後の方で結び、見た物の形が、網膜にはっきり映らない



見る物が近い場合、網膜の後方で像を結ぶ



凸レンズを使うと、網膜の上に像を結ぶ

